

学校の教育目標：やさしく かたく たくましく 経営方針：心の宝物に満ちた学校に



# かさはら

令和 4 年度  
笠原小学校  
学校便り  
11 月 24 日号

児童会：誰もが楽しい笠原小学校を創りあげていくために、思いやり・ルールを大切にしよう

## 心の中のメトロノーム

校長 鈴木 稔朗

霜月のはじめ、6年生の修学旅行が終了しました。初日は強い雨の中でしたが、それに左右されることなく、傘と鹿せんべいを手に、奈良公園のグループ行動に飛び出していき笑顔と心の強靱さに胸を打たれました。限られた買い物時間、好みもペースも異なる仲間と声をかけ合い、折り合いながら班で店を巡る姿。学年としてここまで積み上げた心の成長に感動しました。他方、同じ彼らが、バスガイドさんの説明への心の向け方、見学地の人混みの中で移動するときのまとまりや並び方など、集中力が途切れる時間もありました。どちらの事実も、心の振れ幅を実感したかけがえのない経験です。これから卒業に向けて、一人一人が、個人として、学級や学年の一員として、笠原小学校の最上級生として、自らの生き方を考え、言葉や行動を選び取り、ますます素敵に成長していく糧になると確信しています。

\*\*\*\*\*

私たちの心の中は、日々、メトロノームのように揺れ動いています。そのときの心の状態によって、勇気ある言葉や行動を選び取ることもあれば、感情に負けて、自分や周囲を悲し



ませてしまうこともあります。先日、6年生の TS 君と KR 君は、なかよし通りをほうきで掃いていた私の背中に、50メートルも離れた遠くから「ありがとうございます」と心を届けてくれました。周囲への善意の感心、優し

きのアンテナの細やかさと行動力に心の底から感動しました。上の図で言えば、メトロノームの振り子が左に振り切れた瞬間です。そんな彼らも時には、右に振れます。

それでよいと思っています。振れることが学びです。振れて選んだその結果は、必ず自分に返ってきます。温もり、苦い思い。その時々をしっかりと噛みしめ、積み重ねることで、自分の心のメトロノームの振れ幅や、振れる領域を、少しずつ自分で決めていくのです。

それが例えどれほど小さくても、振り子が左に振れた瞬間を、児童が自分や仲間の笑顔や成長を支える言葉や行動を選び取った瞬間を見逃さず、「大人の目から見てもすごいことだよ」と、私たちは、その選択への賞賛を、本気で伝えていきましょう。

間もなく師走。一年の締めくくりです。大切な児童が、心のメトロノームの振り子を、自分の願う方向へコントロールできるように、「よい選択」をできる回数や言動の質が少しでも高まり、幸せな方向へ自分を伸ばすことができるように、チーム笠原全員の言葉と笑顔で、児童一人一人の心の宝物に光と温もりを届けていただきますよう心よりお願い申し上げます。